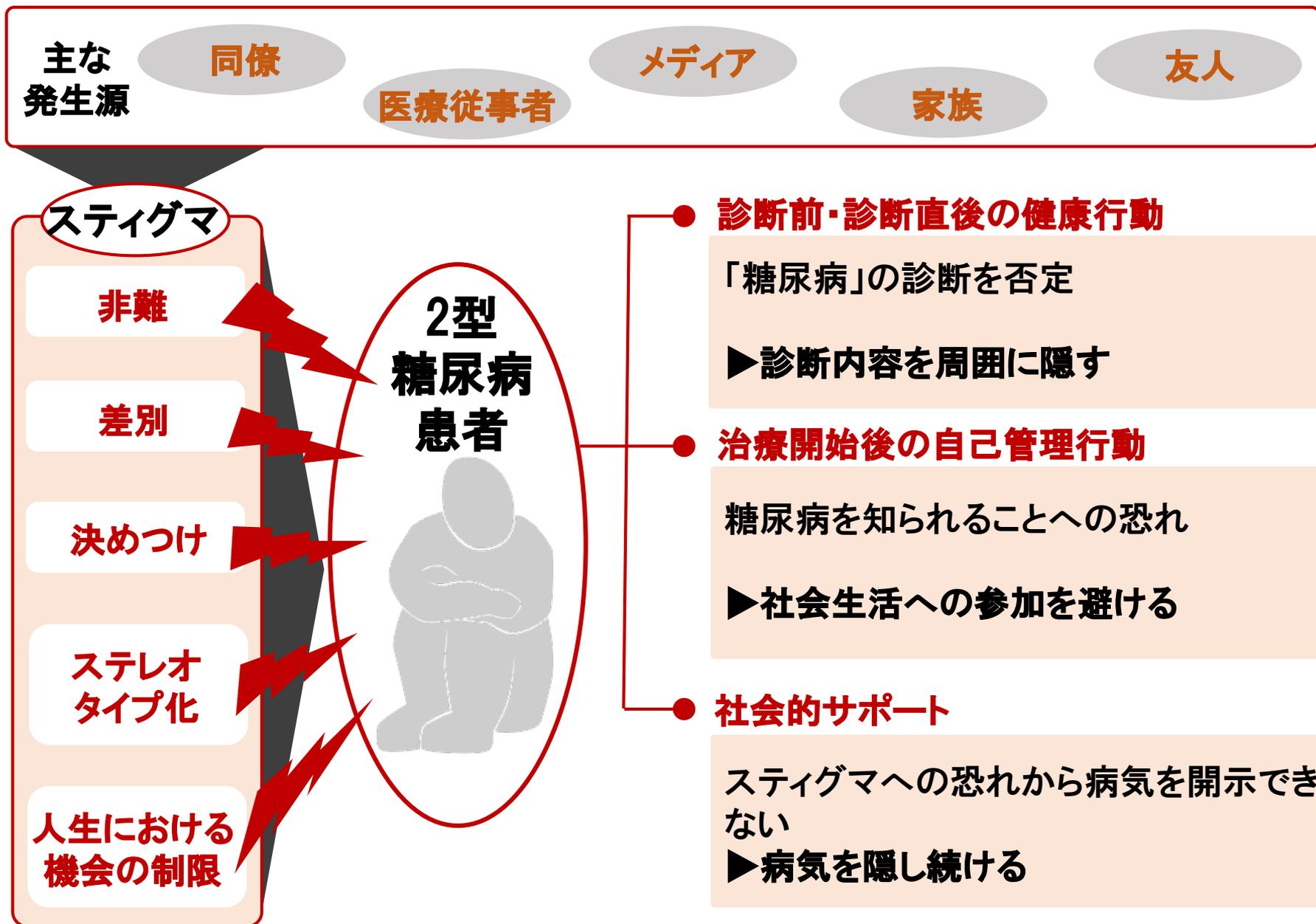


スティグマ

スティグマ(Stigma): 恥・不信用のしるし、不名誉な烙印

- 個人の特徴を一般的に否定的なカテゴリーと結びつけてレッテルを張り、認識すること
- 個人の社会的アイデンティティが不当に損なわれる
- 身体的障害、精神疾患、文化的な相違などを社会的価値の低いものとみなし、見下す
- 医療従事者がこのような態度を示す場合、患者さんに起こりうること:
 - ケアを受けることを避ける
 - ストレス
 - 治療計画に参加しない
 - 医療従事者とのコミュニケーション不足

スティグマが2型糖尿病患者に及ぼす影響



糖尿病のスティグマの類型

	社会的スティグマ (社会的規範からの逸脱、レッテル)	乖離的スティグマ (ステレオタイプからの逸脱)	自己スティグマ (自尊心の低下)
経験的 スティグマ (実際の経験)	<ul style="list-style-type: none">• 生命保険に加入できなかった• 住宅ローンを断られた• 就職できなかった• 寿命が短い	<ul style="list-style-type: none">• 間食を咎められた• インスリンを拒否すると叱責された	<ul style="list-style-type: none">• 病名や診療科• 医療者に「すみません」と謝った
予期的 スティグマ (スティグマへの恐れ)	<ul style="list-style-type: none">• 糖尿病のことを上司・同僚に言わない	<ul style="list-style-type: none">• しぶしぶ注射をしている• 隠れ食いをした	<ul style="list-style-type: none">• 宴会や会合に行くのをやめた

当時の糖尿病患者のイメージ

昭和40年～50年代の高度成長期に糖尿病は増加
(糖尿病患者100万人突破)

当時

- 「がん」 → 死ぬ病
- 「結核」 → 不治の病 → 数年は療養所
- 「糖尿病」 → 不治の病 → 療養生活

「糖尿病」という疾病に対するイメージ

「糖尿病」 → 不治の病 → 療養生活

- 治療手段が限られ悲惨な病気というイメージが浸透
- 血糖測定も限られ尿糖測定が一般的
- インスリン自己注射は違法で自費購入、注射器/針などは自宅で煮沸消毒
→ 大変な病気
- 治療薬もRegular、Lente InsulinとSU薬のみで高血糖昏睡と低血糖昏睡、網膜症による失明、腎不全による死亡が頻発

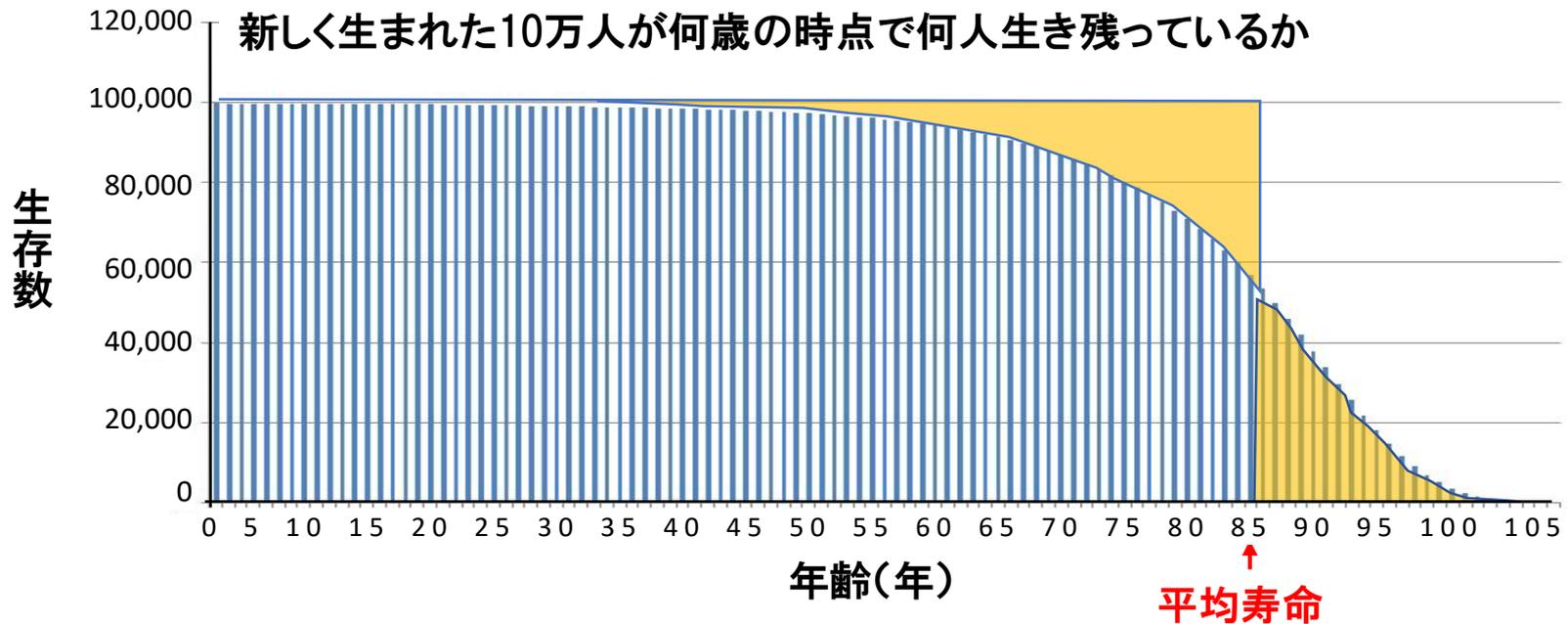
この頃の糖尿病に対するイメージが社会に定着し、
その後の患者の不利益につながっている

治療と予後が大きく改善した今、これを払拭する義務が我々にある

「糖尿病患者の寿命は10年短い」は本当か？

平均寿命：0歳における平均余命を平均寿命という。

0歳児の糖尿病の寿命を算出して、一般寿命と比較したのではない



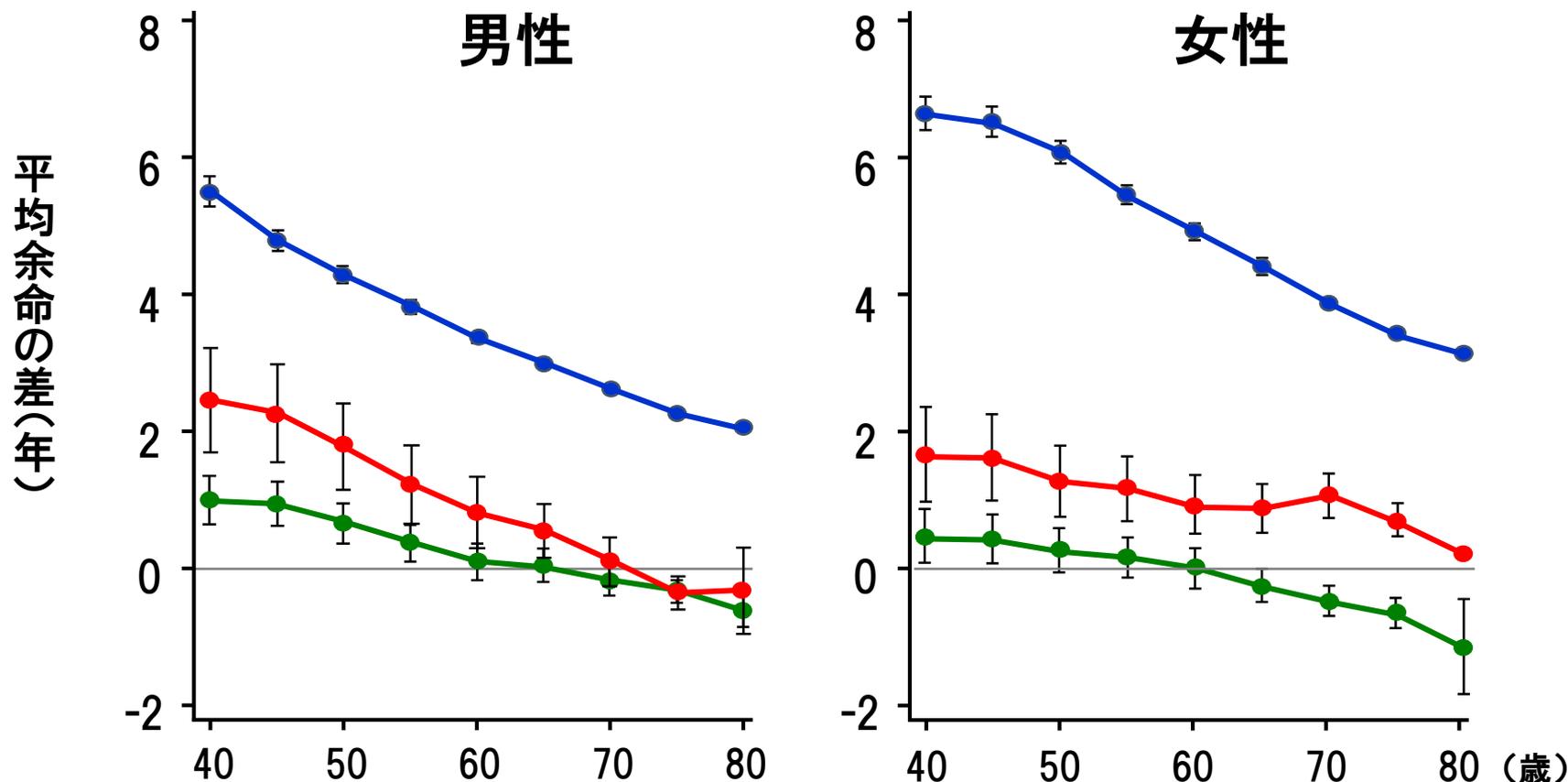
糖尿病と病名が記載された患者が特定の病院で死亡した時の死亡時年齢の平均を計算し(死因調査)、誰かが一般の寿命と比較している。

このように寿命が短いと印象付ける事はStigmaそのもので患者の権利を著しく貶める

糖尿病患者は早死にする？（英国でのデータベース研究）

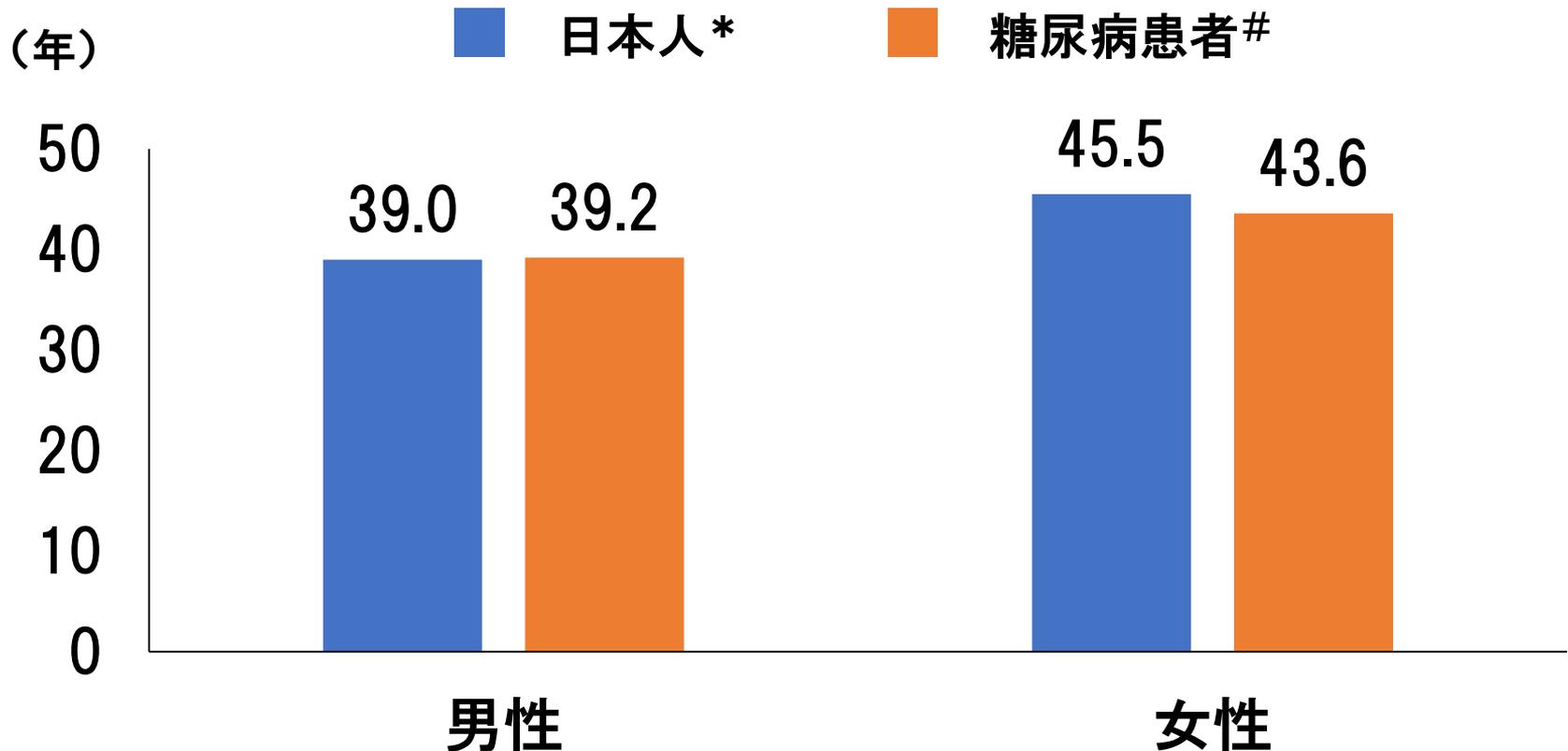
HbA1c: 8.0±2.1%(糖尿病患者)、5.8±0.6%(非糖尿病患者)

n=197,968



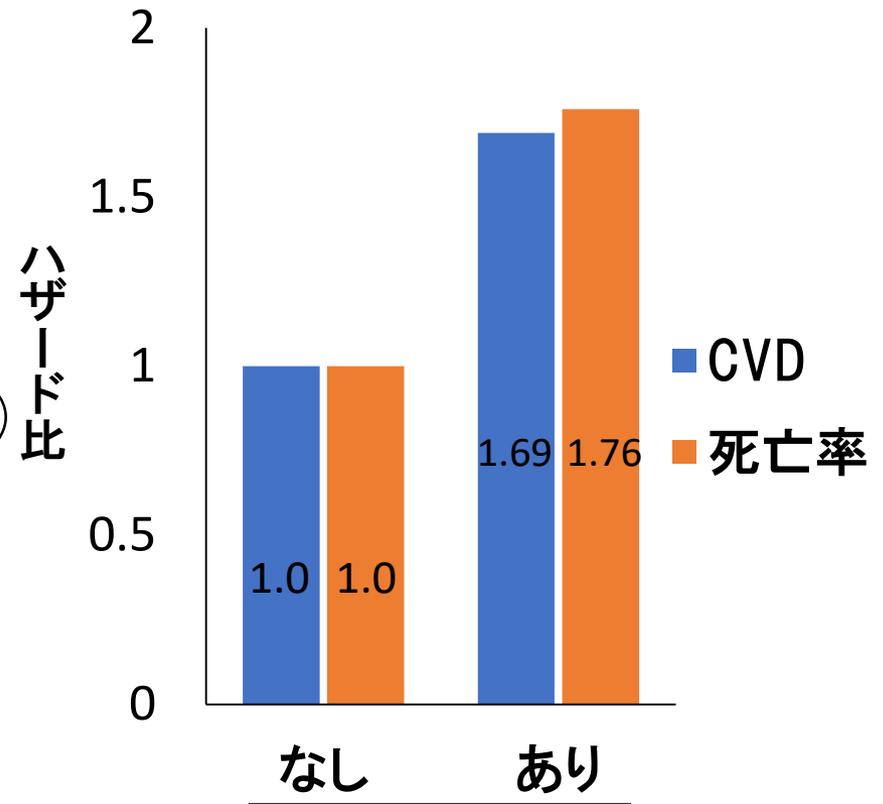
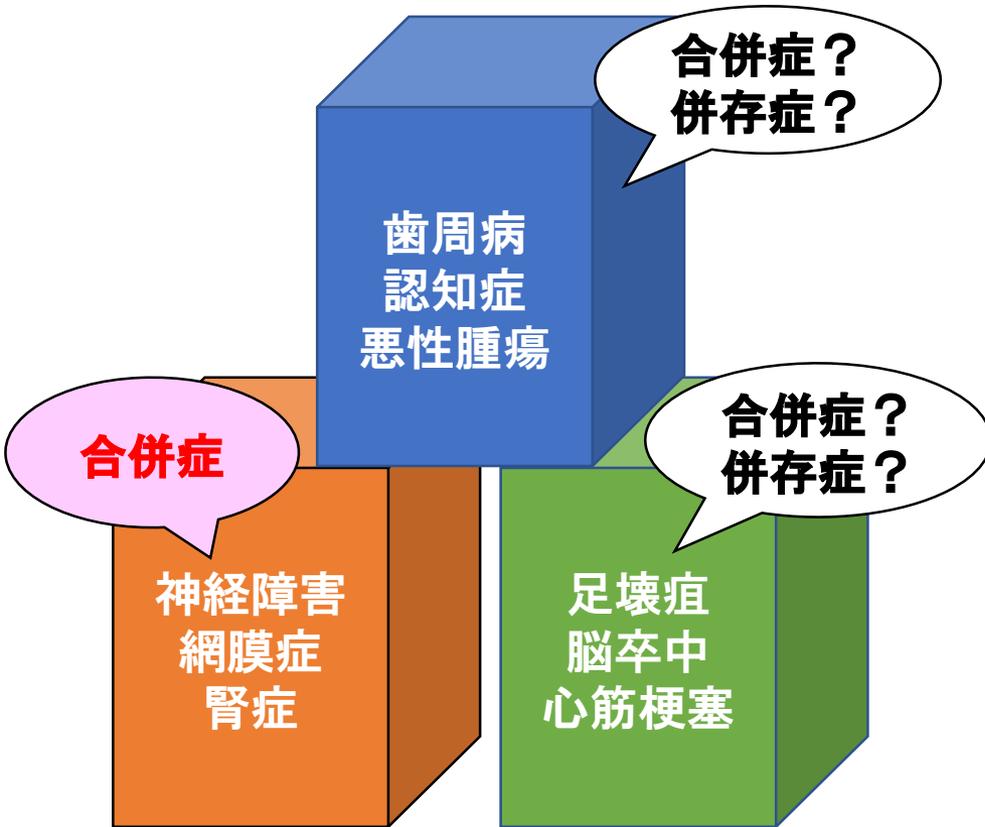
特に黒人・南アジア人(インド、パキスタン、バングラデシュ)では60歳以降でほとんど消失する

糖尿病患者は早死にする？



40歳時の平均余命では、日本人一般と日本人糖尿病患者の平均余命に大きな差はない可能性

糖尿病と9つの合併症！？



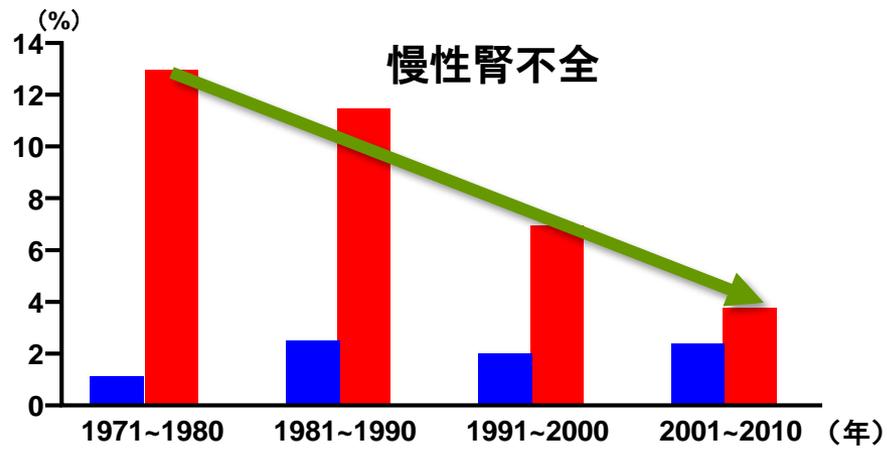
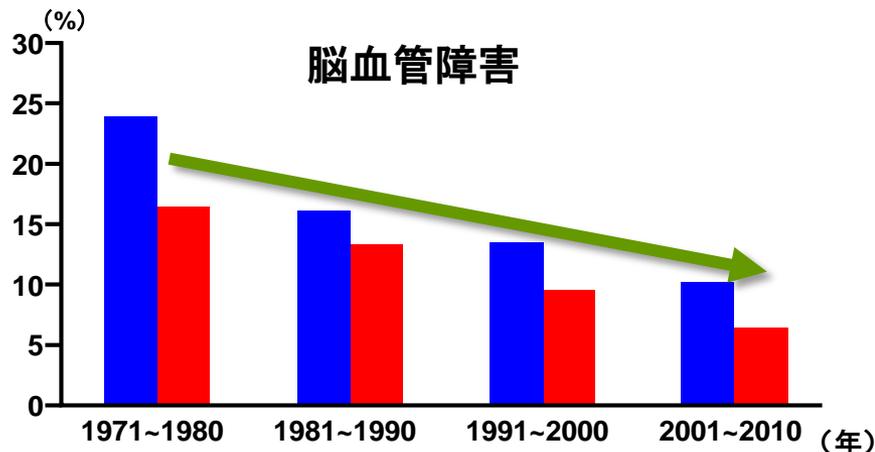
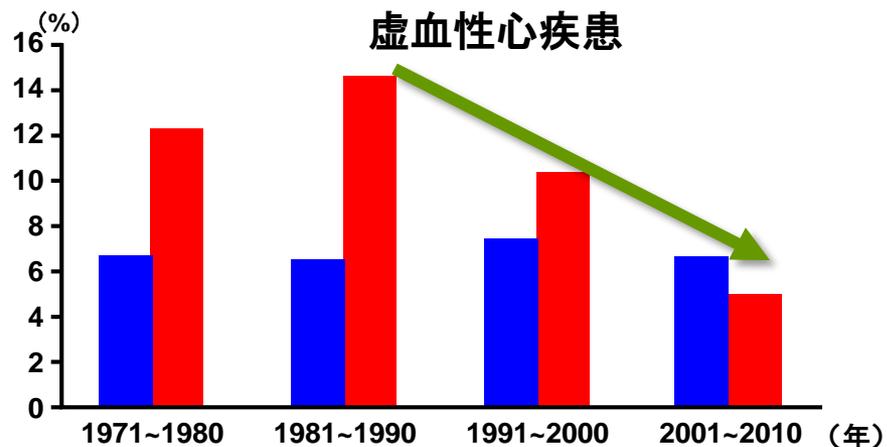
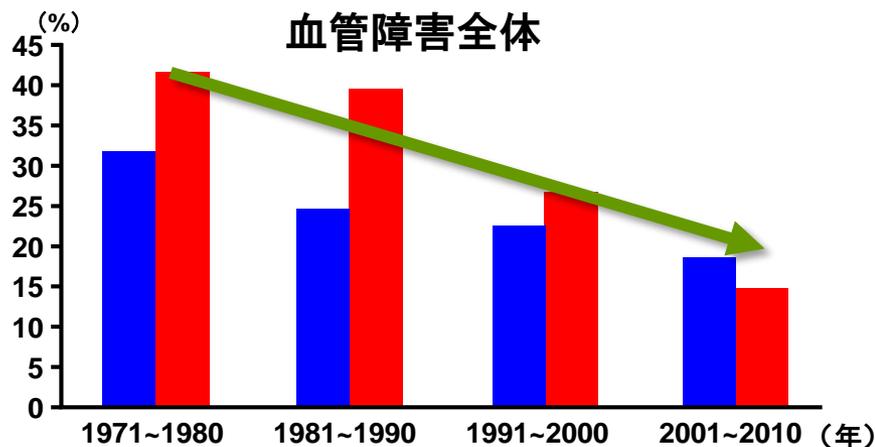
糖尿病診断時の負担感情

- 診断時の患者の負担感情が大きいと予後に影響する
- 他の患者にも起こりうることを、合併症としてことさら強調することが得策か？

日本人一般と日本人糖尿病の死因の変遷

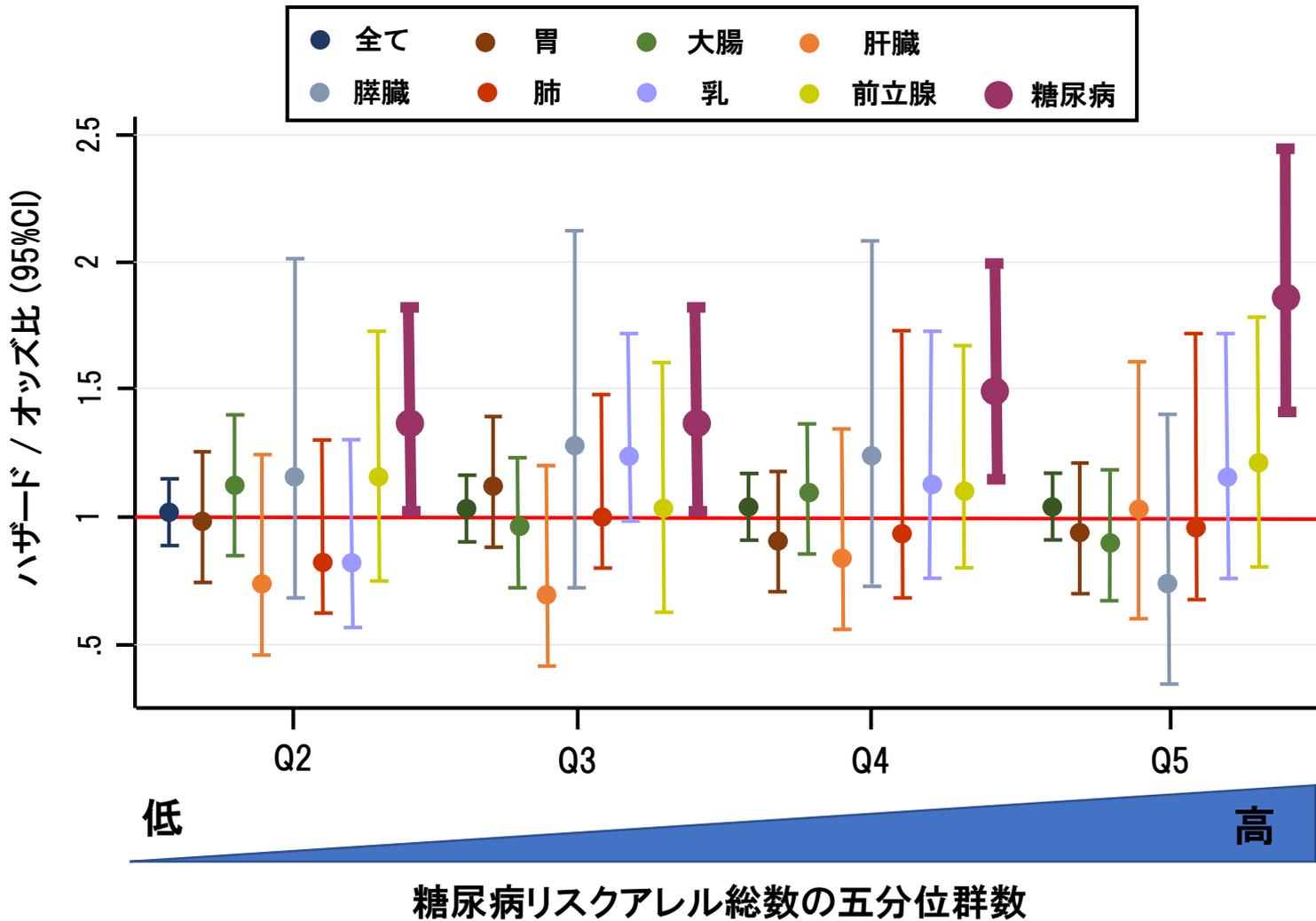
■ 日本人(一般)

■ 日本人(糖尿病)



日本人糖尿病患者が血管障害で死亡する割合は低下し続けている

糖尿病とがんのリスク:日本人の遺伝疫学的解析



糖尿病とはリスク依存的に正に関連していたが、がんリスクとは有意に関連していなかった

「糖尿病」病名自体が患者さんに不利益を与えていないか？

「糖尿病」病名の歴史

- 紀元前2世紀 カップドキアのAreteusが' Diabetes(サイフォン、溢れ出す)'と命名
- 紀元前250年頃 中国にて「黄帝内経素問」・「金匱要略」に「消渴」と記載がある
- 18世紀にWilliam Cullenによって”Diabetes Mellitus(蜂蜜のよう)”と名付けられた
- 1792年「西説内科撰要」にてオランダ語の原典のDiabetes, pisvloedを「尿崩」と翻訳(pis=尿、vloed=洪水、Diabetesは翻訳できなかった?)
- 1872年「内科摘要」では尿崩症との区別から「蜜尿病」と記載された
- 1907年の第4回日本内科学会講演会にて「糖尿病」と統一された

(羽賀、三輪 糖尿病、2006)

「糖尿病」は歴史を表すが病態を表さない。英、仏、独語は翻訳なし
排泄物の名前がつく病名は患者さんには喜ばれないだろう
「ディアベティス」? 発見者の名前を付けるなら「アレテウス病」?

糖尿病治療の目標

良好なコントロール状態の維持

血糖・体重・血圧・血清脂質 etc



合併症の予防 進展の阻止

網膜症・腎症・神経障害



健康な人と変わらない人生

生活の質(QOL)・寿命

私たちは、糖尿病ではない人と変わらない一生といいながら
患者に不利益なことを発信していないだろうか？

脳卒中
心筋梗塞
足壊疽

歯周病
骨粗鬆症
がん
認知症

糖尿病患者のしあわせライフ実現へ！

① Stigma: 医療者が烙印を押さない社会・教育

- 糖尿病をもつ人々の権利を守る
- 糖尿病は特別な病気でないことを啓発

② Advocacy: 患者擁護の視点

- Advocacy はADAの組織の1/4を占める重点領域
- 適切な日本語訳はない。患者中心から患者に寄り添う医療という意味であろうか？